

◇日時：2022年5月12日（木）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：38名

◇内容：「SDGsの基礎的理解（1）」 奈良教育大学准教授 及川幸彦先生

1. SDGsが提案された背景（グローバル・イシュー）

絶え間ない紛争と対立

顕在化する環境問題

苛烈化する自然災害

グローバル化する自国主義

経済的格差の拡大

科学技術の進歩と社会構造の変革

人口格差

感染症の拡大

世界の暴力や差別

- ・約2800万人の子どもたちが紛争で故郷を奪われる
- ・推定1億5200万人の子どもたちが働かされている など

子どもの貧困と不平等

絶対的貧困（1日1.92ドルで生活を強いられている）

相対的貧困（その国の所得の中央値の半分以下で生活している）子ども7人に1人程度

母子家庭になると2人に1人

気候変動とその予測

何の対策も取らない場合（RCP8.5） 21世紀末には気温が最大4.8℃上昇

最も温暖化を抑えた場合（RCP2.6） ほぼ現状維持

上昇を1.5℃までに抑えることを世界は目指している

1.5℃以上上昇すると永久凍土が溶け出し、メタンガスが大量に放出される

相乗効果によって「地球が暴走する」

未知の病原菌が凍土から放出されることも考えられる

海面上昇が島嶼国や沿岸部に大きな影響を与えている

世界で災害が多発・甚大化している

動植物が絶滅したり生物多様性が失われたりしている

森林伐採と持続可能な生産・消費

パーム椰子から取れるパーム油は、食品、洗濯洗剤、医薬品などに幅広く利用されている

パーム椰子農園の急激な拡大に伴う熱帯雨林の伐採、生物多様性の喪失

海洋プラスチック問題

2050年には海の魚の量を超える？

分解されず、細かく碎ける → マイクロプラスチック
有害物質の付着 生態系への影響
海の食物連鎖で蓄積される 魚介類を通じて人間も？
奈良や山形のように内陸部の子どもたちにこそ海洋教育が大事！

2. SDGs がめざす世界

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」

誰も置き去りにしない

持続可能な開発の 3 つの側面

経済成長、社会的包摂、環境保護という 3 つの主要素を調和させることが不可欠

3 つが調和しないと持続可能な社会にはならない（バランス重視）

1992 年 地球サミット → MDGs → SDGs

MDGs（8 ゴール 21 ターゲット）から SDGs（17 ゴール 169 ターゲット）へ
SDGs はすべての国の目標、包括的で互いに関連している

EFA（万人のための教育）から ESD へ

5 つの P People Prosperity Planet Peace Partnership

「誰一人取り残さない」世界の実現

3. SDGs の枠組みと特徴

① MDGs の深掘り（例：極度の貧困 → あらゆる貧困）1・2・3・4・5・6

② 先進国にも関わりの深い新たな課題 7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

普遍的：目標は普遍的なものであり、すべての国とすべての人による行動を必要とする
すべてが関連しているので、1 対 1 対応、個別対応ではいけない

4. SDGs の達成に向けた教育

SDG 4 ターゲット 4.7 だけが大事なのではない

教育は持続可能な社会の担い手づくりを通じてすべての目標の達成に貢献する

SDGs の達成に資する教育 = ESD

教育はすべての SDGs の実現の鍵である

ESD は今の教育の本丸であることを教員自身が自覚すべき

【ESD for 2030】

2030 年の ESD の全体的な目的は、17 の SDGs の達成を通じて、より公正で持続可能な世界を構築すること。

2030 年の ESD は、すべての SDGs への ESD の貢献を強化することを提案

自分たちの ESD の様々な活動が、国際的に整理された目標である SDGs の各目標にどのように貢献しているのかを考える

これまでやってきたことを否定する必要はないが、見直す必要はあるのでは。

（ブレイクアウトルーム…これまでの自分の実践を見直してみる）